

第4回小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会 会議録

日時：令和6年5月2日（木）午前10時30分～午前11時45分

場所：小牧市役所 本庁舎4階 402会議室

■出席者

【委員】（名簿順）

柴田 好章	名古屋大学教授
鈴木 賢一	名古屋市立大学特任教授
横山 幸司	滋賀大学教授
加藤 和昭	味岡小学校長
塚本 真也	光ヶ丘中学校長
服部 裕司	小中学校PTA連絡協議会委員（桃陵中学校PTA会長）
後藤 美保子	小中学校PTA連絡協議会委員（小木小学校PTA家庭教育委員）
舟橋 秀岳	小牧市区長会連合副会長（北里）

【事務局】

中川 宣芳	教育長
伊藤 京子	教育部長
矢本 博士	教育部次長
丸藤 卓也	教育総務課長
長谷川 真	学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹
吉田 隆	学校教育課長
采女 隆一	学校教育課管理指導主事兼主幹
瀬尾 宗利	学校教育課指導主事兼主幹
遠山 史織	教育総務課庶務係長
稲垣 翔太	教育総務課庶務係主事

■傍聴者

1名

■配布資料

資料1 新たな学校づくり推進計画の策定について

資料2 令和5年度のふりかえり

資料3 計画（案）「今後の取り組み」

■会議内容

1 開会

2 教育長あいさつ

【中川教育長】

本日は、委員の皆様方におかれましては、小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会の開催にあたりまして、大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。前回の第3回の委員会では、学校の規模、適正規模、適正配置などについてご議論をいただいたところであります。本日につきましては、今後の取り組みについてということで、学校再編の具体的な進め方についてご議論をいただくことになっております。皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をいただき、実りのある会議にしたいと考えております。皆様のご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

3 委員・事務局職員紹介

・新任の委員の紹介を行った。

4 前回会議録確認

・前回会議録について確認・承認いただいた。

5 議題

(1) 新たな学校づくり推進計画の策定について

・事務局より資料1・2に基づき、計画の策定概要及び令和5年度のふりかえりについて説明した。

(2) 今後の取り組みについて

・事務局より資料3に基づき、今後の取り組みについて説明した。

服部委員	耐用年数が80年ということで示されているが、耐用年数が80年ということ初めて聞いた。80年は鉄筋コンクリートの耐用年数として定められている年数ということを考えての資料だと思うが、南海トラフなどが騒がれている中で、この間も能登で地震があって、80年ということで良いのか心配がある。80年で安心という基準があるということで良かったか。
事務局	目標耐用年数80年についてのご質問でございますが、鉄筋コンクリート造などに関しましてはいろいろな耐用年数の基準がございますけれども、本市としては原則60年を基準に、施設マネジメントの観点から、

	それをさらに長寿命化し、適切な改修、維持補修をしながら 80 年まで高めていくということで計画を策定しております。
服部委員	やはり地震が多い中で、これから不安な時を過ごしていく中で、予算の問題もあると思うが、統廃合を含めて建替えを早めに進めていった方が良いと思う。篠岡地区では、ずっと 1 クラスの状態で、説明の中でもあったように、多様な他者との触れ合いが困難になる 1 クラスで、体育大会などで競い合うこともない状態が続いていると聞いている。なので、篠岡地区に関しては、いち早く統廃合の検討を進めていくことを願っている。篠岡地区は、それほど広くないことから、この通学距離も小学校 4 キロ、中学校 6 キロ、1 時間以内という基準はおそらく当てはまっている。また、遊歩道もあり、比較的に安全に通学できる区域だと思っている。また、立派な公園も数多くあり、ウォーキングをするが、公園で遊んでいる子どもがほとんどいない。立派な公園がある割に、すぐくもったいないと感じている。なので、そういったものの活用とか、統廃合を進めながら、使わなくなる小学校は、駐車場もあり広い敷地も運動場もあるので、その有効活用も合わせて考えながら進めていただけると住民としては嬉しいと思う。
後藤委員	今後の取り組みについてのところで、小中一貫教育の話が出てきたが、現在、中高一貫校というのも何校かあって、少ないとは思いますが小牧でもそこに行きたい子もいると思う。小中一貫と中高一貫で、中学校という位置付けが被ることについて、どのようにお考えか教えてほしい。
事務局	お答えになるかどうかわかりませんが、教育委員会としましては、義務教育の中の 9 年間について、まずここを一貫した教育が行えるようにと考えておりまして、そういった意味で、新しい学校を再編するにあたって小中一貫を検討していくということで、この資料にも書かれております。中高一貫については、義務教育外のところとの接続になりますので、市の教育委員会だけでは出来ませんので、ご家庭の判断ということもあるかと思います。
事務局	小中一貫教育は、いわゆる義務教育の中で小学校と中学校を一貫して教育をしていこうという考え。中高一貫教育となりますと、義務教育から離れて、中学校とそれから高等学校で、分野を狭くしてより専門性を高める。例えばサイエンスに特化した学校や、新たな時代を創造していくための目的を持つというところで、目的がそれぞれの学校に違いが出てきます。当然、設置者におきまして、小中一貫では小牧市、中高一貫ですと愛知県というところもまた違いになってまいります。いずれにしても、目的に応じて一貫教育を進めていくというように考えています。

後藤委員	将来、小中一貫校が小牧市の中で一般的になったとして、その9年間の途中で、例えば、小中一貫校に通う子どもが、中高一貫校に行きたいと言った場合は、途中でであってもそちらに移行することは可能なのか。
事務局	例えば、小中一貫校の中で、いわゆる義務教育の前期、今で言う小学校の1年生から学んで、中期の小学4、5、6となったときに、やっぱり小中一貫校に通っているけれども、中高一貫校に通いたいとなった場合には、改めて中高一貫の入学試験や適正検査みたいなものがありますので、それを受けていただいて、そちらの方に変わるというのは十分可能でございます。小中一貫校にしたことで縛りを持って、ここしかダメだということではなくて、小学校と中学校がもっと接続をして、義務教育9年間で子どもたちをどう育んでいくかという明確なものを持って、小学校から中学校ということではなくて、小学校1年生から中学校の3年生まで、これをパッケージで考えていこうという考え方になります。
服部委員	教えていただきたいのだが、今は教員が不足しているというように聞いている。なので、統廃合していったら、教員の数はどうなるのか。統廃合していったら教員は少なくて済むというようなイメージがあるが。
事務局	教員の数につきましては、児童生徒数とそれに伴う学級数によって定められております。したがって、仮に学校の再編をした場合、学級数が減りますと、それに応じて教員数が減るという考え方になります。
舟橋委員	資料2の12ページに、校舎の老朽化について順番に建替えをしていくことが示されていたと思う。これは統廃合をしなかった場合の想定だとは思いますが、これで先ほども言われたような地震などにも対応していけるとは思うが、建替えをするまでに、改修・補強は順番にされていくのか。地震への対策や、新しい校舎になる学校がある一方で、古い校舎の学校でもある程度同じような環境で子どもたちが勉強できるように改修などもされていくのか。
事務局	まず、耐震のご質問ですが、昨今、地震が各地域である中、ご心配されるという声もよく分かります。小牧市内の小中学校におきましては、耐震改修におきましては全て完了しておりますので、そちらについては問題がないと考えておりますが、80年使っていく中で学校施設については、いろいろなところで老朽化であったり、不具合が出てくることもあるので、80年という目標耐用年数まで使うために必要な維持補修であったり改修については適切に対応していくということで考えております。
舟橋委員	もう1つの方の質問で、新しい校舎になった学校で、例えば、新しい理科室であったり、新しい設備などができた時に、古い校舎の学校の子どもたちも同じような環境にする対策はあるのか。格差ができてしまうの

	は問題かなと思う。
事務局	学校の建替えに伴いまして、建替えをしない学校との教育環境の格差ということでご心配されているということですが、本市におきましても、もちろん建替えた学校と建替えていない学校で比較すると、教室の広さであったり、廊下の広さなど、いろいろな部分で違いはございますが、子どもたちが学びを進めていく上で、教育環境として格差が生じないように、様々な面で配慮しており、例えば、空調であれば全ての学校の普通教室で改修が完了しておりますし、子どもたちが学ぶ中で環境差が出ないように努めてまいりたいと考えております。
鈴木委員	地区別の具体的な再編案が示されていて、特に3つの地区については早く着手しないといけないと示されているが、この3つの地区については、まだ考え方の段階だと思うが、具体的に進めるにあたって、時期的なスケジュールとして、3つの地区を同時に具体的な検討の段階に入るのか、あるいは3つの地区でも順番があるのか1つお聞きしたい。それから、小中一貫校の検討について、これらの地区については最終的に1校ずつになるため、施設一体型の小中一貫を検討してもいいかなという気がするのだが、こういったことについて、この地区としては、ここで小中一貫教育やりますか、みたいな個別の話ではなくて、市全体として小中一貫としての取り組みというものがベースにあって、それで新しい学校を建替える時にそれをきちんと適用するみたいなイメージでいいのかどうか。つまり、建替えの時に改めて小中一貫教育やりますかという問いかけをするのか、そうではなくて市としてはそういう方向で考えている中での建替えなのか、その2つをお伺いしたい。
事務局	まず1点目で、その3地区、巾下地区、篠岡地区、北里地区については早急に協議を開始するという中で、その中でも順番はあるのかというようなお尋ねがございました。この3地区を対象とさせていただいたのも、児童生徒数の減少が著しいことと、学校施設の老朽化という2つの側面から、この3地区については早急に取り組む必要があるということでお示しをさせていただきました。今後の協議の流れでも示させていただきましたが、その3地区におきましてそれぞれの再編計画を策定します。この再編計画を地域の方々と課題を共有しながらまとめていくというような予定をしておりますけれども、これらの方針がまとまり次第、できるだけ速やかにと考えておりまして、特にこの3地区、どこからというような計画ではなく、この3地区いずれも速やかに検討していく必要があると考えておりますので、この計画がまとまり次第、できるだけ速やかに協議の方に入っていきたいと考えております。 もう1点、小中一貫教育につきましてご質問をいただきました。学校再

	編に伴いまして、学校の建替えを要する場合に、施設一体型の小中一貫校というのも検討に入ってくるかと思いますが、場合によっては、立地的に施設一体型の小中一貫校が難しい場合が出てくるかと思いますが。ただ、市全体でどのように進めていくのかというようなご質問でございました。再編に合わせて、小中一貫校の導入をもちろん検討いたしますが、再編に該当しない学校につきましても、小中の教育の連続性や一貫性など、該当校だけが9年間の学びをということではなく、市全体で同様の学びを保障していくかについて、しっかりと検討していく必要があると考えております。
鈴木委員	今の後半部分は、資料には「学校作りを行う際に検討する」というような書き方であるため、今の説明と逆のように捉えられるのでお聞きしました。私もいくつかのところと関わっていて、やっぱり建物の方が先行していくケースが多いため、教育の中身の方が先行できるかどうかはともかく、かなり早い段階からきちんと検討をする必要がある。施設分離型で進めるのであればさらに早期に行う必要があると思う。そういうことも含めて、教育上のソフトの話を組立てる体制も同時に考えないといけない。それから、前半部分の話なのだが、篠岡地区は、再編がストレートではなく、途中で段階を踏むというような書き方がされており、さらにプログラムが複雑になるような気がする。それぞれでどういう段階がいいのかがまだよく見えないが、検討時間が長期化するような気がする。関係者が多く、途中の段階ということで、おそらく中々まとまらない気がしていて、もしこの方向で進むということであれば、そういう意味でも早く具体的な検討チームを作って着手された方がいいかなと思う。
塚本委員	今、お話の中にありました、篠岡地区は段階的にと書かれてあるが、この段階的というところのイメージをもう少し教えていただけるとありがたい。また、12 ページのところに、開校までの流れが書いてあるのだが、できるだけ速やかにというお話だったが、これからの話し合いによって変わってくるところがあるかと思うが、再編イメージを見ていくと、令和15年の推計が書いてある。開校は令和15年を1つの目標とされているのかなと思うが、そのようなイメージでよろしかったか。
事務局	まず1点目で、篠岡地区の段階的なというところの表現でございますけれども、篠岡地区については、学校数も多いということもございしますが、特に、陶小学校におきましては、もう現時点におきましても1学年1クラスの状況がございします。また、その他の学校につきましても、学年によっては、1学年1クラスになってきているという状況がございします。ですので、全ての再編計画がまとまる段階を待っているのではなく、もう

	すでにその状況が起きているということなので、できるだけ速やかにその事態の解消、課題の解消を図るという意味で段階的にということを書かせていただいております。いつまでに再編を進めていくイメージかというようなご質問だったかと思います。今回、地区別の再編イメージということで、令和 15 年度の推計に基づきましてイメージをお示しさせていただきましたが、令和 15 年度までに実施するということではございません。あくまで令和 15 年度の推計に基づくイメージを示させていただきました。平成 29 年 3 月に策定しまして、令和 5 年 3 月に改定をいたしました小牧市公共施設適正配置計画というのがございます。こちらにおきましては、学校施設の建替えのスケジュールを、老朽化の観点で、平成 29 年度から令和 28 年度までの期間を 3 期に分けて、お示ししております。一方で、今回取り組んでおります計画につきましては、学校施設の老朽化の観点だけでなく、児童生徒数の減少と子どもたちにとって望ましい教育の観点で、適正配置計画の見直しをしていくというイメージを持っておりますので、計画期間としては、適正配置計画の見直しになりますので、一旦令和 28 年度までとさせていただきますが、学校再編につきましては、地域や保護者などの合意形成に非常に時間がかかることが想定されます。その進捗状況や児童生徒数の減少状況にも大きく影響されるものでございます。また、その計画期間についても、いつまでに全て完成させるということは難しいのではないかなと思っております。いずれにいたしましても、巾下地区、篠岡地区、北里地区については喫緊の課題であると考えておりますので、できるだけ早く協議をスタートさせていきたいという風に考えております。
横山委員	再編のイメージとしては、児童生徒数を基に作成された案というように思うが、その結果、単純に行けば 25 校が 15 校になるというような感じで、学校数が 5 分の 3 になるということだが、その場合であっても、新しく統合する学校のリニューアルなどをしていかなければならない。また、既存の学校も運営コストがかかる。このままでいけば、全部の 25 校を今後 50 年かけてリニューアルしていった場合、50 年後は物価も違うが、今の水準で考えていた時には、トータルでどれだけのコストがかかるのかというようなこと、それから、学校の数が 5 分の 3 になったときにどれだけのコストになるのか、あくまでも現段階でのシミュレーションに過ぎないが、やはりこうしたことをお示ししていく必要がある。そうでないと、市民の皆さんも、本当にどれだけのコストがかかるのかということ、教育的な見地もあるが、その前に小牧市の財政は大丈夫なのかと、こういう議論をやっぱり明確にしていかなければいけない。私が調べたところ、小牧市の基金に次世代教育環境整備基金がある。ご質問

	なのだが、学校整備に関わるその基金というのはここに含まれるということでしょうか。
事務局	次世代教育環境整備基金につきましては、学校建設や学校改修などを目的とした基金でございます。
横山委員	令和3年度の決算が1番直近で、それを拝見すると、49億6700万ぐらいしか基金がないので、ざっと考えても25校分としてはとても足りない。もちろん基金というのは毎年積み上げていくものではあるが、昨今の状況を見ていると、むしろ取り崩してくる方が多いということを考えていくと、この辺りの現実の問題をお示ししていった方がよいと思う。
事務局	学校建設と合わせて、運営のコストも含めて、再編に向けては市民の方に丁寧に説明した方がよいというようなご意見だったかと思います。現時点で、全ての再編の計画がまとまってはいないことから、トータルコストというものをまだお示しできるものがございませんが、今後、具体的な再編計画を策定するにあたっては、委員がおっしゃられたとおり、そういったことも含めてしっかりと数字でお示ししていく必要があると思っております。
加藤委員	先ほどの篠岡地区の段階的な再編というのも大変なことだと思うが、巾下地区のところの再編のイメージを見ていると、中学校は隣接する地区の中学校へ統合と示されている。小学校1校で、中学校については他の地区へというイメージをされているが、実際にこのようにすると、大幅な校区再編という形になり、地域との合意形成に大変な時間がかかるのかなと思うが、3地区の中ではこういった観点を1番優先してスタートしていくのかお聞かせいただきたい。
事務局	巾下地区におきまして、再編のイメージといたしまして、小学校1校、中学校は隣接する地区への統合を検討するということでお示しさせていただいておりますが、今回、地区の再編イメージをお示しするにあたりまして、地区ごとに、児童生徒の状況に応じて検討をさせていただきました。ただ、今後より具体的に検討していく中で、この地区だけで収まらないことも想定できます。例えば通学区域の変更によって、これまで通ってきた学校から違う学校に通って、児童生徒の状況に変化をもたらすこともありますので、こちらの中下地区についてはそのような書き方をさせていただきましたが、同様に、他の地区においても、必ずしもその地区だけで再編を行うということではなくて、隣接地区との通学区域の変更ということも検討の一つに入ってくるかと思います。その中で、巾下地区におきましては、村中小学校、三ツ渕小学校については、現時点では1学年1学級ということではございませんが、非常に少ない学級数になっており、また今後、児童生徒数の減少も進んでいくことが見込

	まれておりますので、まずは、その小学校について検討を進めてまいります。同様に、中学校も合わせて検討をしていく必要があると考えています。
柴田委員	本日出た意見を基に、また事務局の方で検討していただければと思う。先ほどの財政的なことについては、計画が明確でなければ、はっきりした数字は出せないと思うが、今はイメージで、イメージの具体性はまだだとは思いますが、段階的に示していただいた方が、おそらく説得力が出てくると思う。再編が明確にならなければ試算できないと言うが、ある程度の検討の状況に応じて中間的に出していただければいいかなと感じた。それから、鈴木委員からご指摘があった小中連携のところで、義務教育9年を通してどのような児童生徒を育成することを目指していくのかというような、その中でも小中一貫校であったり、あるいは小中別々であっても連携させる教育を、おそらくその辺りは常にビジョンとして、教育委員会としての考えはあるのだと思う。もしよろしければ、教育委員会として今お話しできるところでお話していただいて、それがこういった建物のところに繋がっていけばいいのかなと思う。
事務局	小牧市としましては、今まで学び合う学びということで10数年続けてきたものを改めて計画し直している、検討している段階でございます。その中で、今まだ検討中ではございますが、夢チャレンジ科というものを創設することができないかと考えております。この夢チャレンジ科というものは、総合的な学習の時間をより充実させていく中で、それぞれ子どもたちが義務教育9年間で完結するように、連続した学びということで考えております。まだ検討段階ではありますが、すべての小中学校において、子どもたちが、学年・学校を取り払っていけたらと考えています。
柴田委員	そういった構想を、具体的な学校建設とか学校再編の中に活かしていただけるといいのかなと思う。
鈴木委員	再編とか建物をどうするという話を先行させるより、やはり夢のある話を先行させて、子どもたちのための新しい環境作りのために取り組んでいることがきちんと見えていて、その中に向かって環境が整備されていくところが見えると少し違うかなと思う。小牧市がそうではないということではなくて、将来について、大人が考えているということが伝わると良いと思う。
柴田委員	これまでの積み重ねの中で、地域との連携、施設利用ということも含めながら、もう少し、今のこの夢チャレンジというところで、地域の様々な人たちが関わる、今だと「社会に開かれた教育課程」という考え方があるので、施設だけを開くのではなく、教育課程の中でも地域と連携で

	きるような、そういう中で夢とかチャレンジが育まれるような、そういう学校づくりの方向に進めていただければ、おそらく、これまでうまく出してきたこと、それからこれから目指すこと、それがこの新たな学校づくりの推進とも結びつくのではないかなというように思う。
塚本委員	丁寧な地域との合意形成に努める、ということがすごく大事だと思う。併せて、それと並行して、今実際に1クラスになっているような学校があると考えても、現状に対応したスピードが大切となるので、そのバランスというところが今1番難しいところなのだろうと思う。スピード感を持ちつつ、かつ丁寧にやっていくことが必要かと思う。

6 閉会

- ・次回の第5回検討委員会は、令和6年6月中旬ごろを予定している。日程及び場所は改めてお知らせしたい。